

編 集 後 記

東京教育大学の廃学と筑波大学への移行という混乱の中で、教官も院生も試行錯誤をくり返しながら教育と研究を積み重ね、どうにかこの第四巻を発行できるようになりました。

第四巻の成果は、一年間に及ぶ第三巻の検討会を基礎にして獲得されたものです。毎月一回の月例研究会は、ほぼ予定通り消化できましたし、教官会員の皆様も多忙な中からよく出席して下さいました。特に宇留田先生は研究会に入会して下さいるとともに、夏期合宿にも参加し、第四巻への寄稿を快諾して下さいました。また伊津野先生が、第三巻の論文検討会などへ出席して下さいったのも会員の励みになりました。院生会員としては、篠原、北神の両氏が新しく入会しました。篠原会員はさっそく第四巻にその研究成果を発表しております。

この第四巻では、村田、天笠両院生会員の力作も掲載することができました。これまでの研究成果がどのように盛り込まれているか、今後の両氏の研究活動がどう発展していくのかなど、これからの検討会で話題になることでしょう。丸山先生の論文は、今年度から研究会として共同研究のテーマ[※]に選んだ「教員の研修」に関する学校現場からの研究成果です。また堀内先生を中心とする京都教育大の共同研究は、これまでの研究会にはあまり見られなかった成果であったと思います。研究会の活動拠点が大きく広がったものと考え、二人の学生会員の今後に期待したいと思います。大西院生会員の論文は、学校経営研究に新しい視座を開拓しようとする意欲の現われのように思えます。今後この寄稿を契機に、わが国の学校経営研究が、新たな経営論や組織論を構築できるよう、本格的な論文を次号までに期待したいものです。

ところで、大学院での今年のテーマは「学校経営計画論」でした。このテーマは54年度も継続研究され、調査研究としてやがてまとめられる予定です。この3月にすでに予備調査に着手しております。永岡先生が第一巻や今年度の「学校運営研究」昭和53年4月号～54年3月号に連載していた論文が理論的出発点です。これから一年間、何らかの形で研究成果を公表できるものと考えております。

そのほか、富田先生が埼玉教委30周年記念の「教育実践論文」で優秀賞を受賞というすばらしいニュースもありました。題は「現代の教師像を求めて ― 私の教職・教師論」です。また、この4月から小松院生会員が東京電機大学理工学部講師に就職します。したがって、4月からの院生は7名になりました。

最後になりましたが、4月に『現代学校の探求』（永岡順編著 ― 第一法規）が出版されます。第四巻ともども読者の御批判や御指導をいただければ幸いです。

6月1日、2日は筑波大学で第19回日本教育経営学会（準備委員長 ― 永岡先生）が開催されます。小島先生を先頭に再び私たちの手でぜひ大会を成功させたいものです。

[※] 「教師の指導力形成の要因と研修システムの改善に関する実証的研究」

（事務局一小松記）